

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172100832		
法人名	社会福祉法人 大東福祉会		
事業所名	大東グループホーム なでしこ		
所在地	岐阜県大垣市東前1丁目86番地1		
自己評価作成日	平成26年6月30日	評価結果市町村受理日	平成26年9月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/21/1/index.php?act=on_kouhyou_detai_2013_022_kani=true&amp;ji_gyosyoCd=2172100832-00&amp;PrfCd=21&amp;VersiOnCd=022">http://www.kai.gokensaku.jp/21/1/index.php?act=on_kouhyou_detai_2013_022_kani=true&amp;ji_gyosyoCd=2172100832-00&amp;PrfCd=21&amp;VersiOnCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成26年8月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりが個性豊かであり、調和を保つことの難しさは変わらず続いている。時にいさかいが強く大変だが職員が関わることで良い方向へ進むことを願い日々努力している。入退居が相次ぎ、新しい顔ぶれとなり、雰囲気 が少しづつ緩和し、その方のできることを、分かることを持続する姿勢を忘れず、役割作りを大切に支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所内のカルチャーホールを地域に開放して子ども会や町内会の集会・地域行事などに使ってもらい、地域の人々が自由に出入りして交流の場となっている。また、地域の一員として溝掃除や資源回収に協力し、子ども見守り隊やゴミ拾いには利用者も散歩をしながら一緒に参加している。地域とのつきあいを大切にして事業所の理解が得られるよう努め良好な関係を築いている。担当者会議には利用者・家族に必ず出席してもらい、要望を聞いて意見を出し合い現状に即した介護計画を作成している。職員は、手をささず見守ることで利用者の得意なことや出来る力を活かした支援に取り組んでいる。代表者・管理者は、日頃から職員の提案・要望を聞き、話しやすい関係を築くよう努めている。今回の外部評価に当たり、全職員が自己評価を行い日々のケアを振り返り、サービスの質の向上に繋げた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をもとに職員の考え意見を参考に、行動指針や事業目標を立て、定期的に見直すよう、チャレンジシートを提供している。また、見えるところに掲示している。	法人の理念と行動指針をもとに、職員で話し合っって基本姿勢を作り、目標を毎年立てている。毎月チャレンジシートで目標の自己評価と全職員で反省会を行い、理念を共有して取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的な美化活動、見守り隊を持続し、挨拶を心がけている。近所への迷惑行為に対し、理解を得られるよう、随時、訪問も兼ね日頃より出会ったら声をかけている。	地域の人が夏祭りや餅つき大会に参加したり、庭の草むしりをしてくれるなど自由に出入りしている。また、保育園・小学校の行事やラジオ体操などに参加して交流している。子ども見守り隊・溝掃除など地域の役割も担っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	いきいきサロンや、介護予防教室を定期的開催されるとき、ご利用者も参加させていただき、理解を得られるよう関わりを続けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	杖を振り回す方、マンツーマン対応でしか生活が困難な方に対しての支援方法、今後の予測も含め話し合いをした。入居者や家族の参加、地域関係の方より意見交換や要望を頂き、サービスの向上に努めている。	利用者の状況・事業所の取り組みや問題・悩み事を報告して一緒に考えてもらっている。出席者からは、それぞれの立場での意見や要望が出されている。会議内容を全職員に報告して運営に活かすよう取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域密着運営推進会議に行政の方も出席していただき連携・生活保護等の相談を続けている。	運営推進会議以外でも頻繁に連絡を取り合い、手続きの方法や利用者の個人的な事なども含め相談に出向いている。担当者より意見やアドバイスを受け、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	杖を振り上げる方がおり、行動を制限する必要が時としてあった。本人の安全と他への危害を予防するためであった。専門医へ相談し、治療開始となったが、周辺症状の軽減と、周囲との関わりを守ることは難しく、調和を築けるよう努め勉強となった。	職員は言葉での拘束や具体的な行為を理解して、身体拘束をしないケアを実践している。暴力行為や転倒の危険がある人への対応方法などを話し合い、居室の変更やセンサーマットなどを活用しながら行動制限をしないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	交代勤務であり、すれ違う環境で相手を理解すること、把握することはとても難しい。声をかけあい、皆で守っていけるよう配慮している。注意すべき職員へは個別で面談し、予防や改善に努めている。		

大東グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	持家や財産のことなどから成年を使用した方がよさそうな家族様には説明をしている。事業所連絡会や、情報交換会に参加し、必要な方はいないか考えつつ働きかけている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	精神科で認知症治療、入院や重度化に伴う方、経済的理由から継続生活が難しい方への十分な説明をしている。理解や納得ができるよう話し合い、スムーズな退居に向けて、本体施設との連携を細かく行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃より面会やケースカンファレンスを利用し、何気ない日常の様子を伝え、良好な意見交換ができるようにしている。内容より要望や、思っていることを把握し、業務に反映できるようにしている。	日頃から話しやすい関係を築き、訪問時に声をかけて意見を聞いている。また、行事ごとにアンケートを行い、要望を次の行事に反映させている。居室の掃除・衣替えなど家族の要望を職員で話し合い対応した。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設長と個別の面談により意見が伝えられる機会ができた。それにより距離感が近づき日々の業務に反映できるよう努めているところである。	日頃から職員の提案など聞き、会議で発言する時間を設けている。起案書を提出して修理や物品購入の要望が取り入れられた。勤務時間内に会議を開くことや深夜勤と夜勤の人数を調節して、職員の負担を減らした。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の能力に応じ認め向上していくよう声をかけている。ステップアップはなかなか難しいが、諦めず見守り必要時は声をかけている。深夜勤の回数の減少や、業務中に会議ができるよう取り組んでいるところである。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験や能力に見合った、法人内外の研修においては、職員へ伝えて参加を呼びかけている。これからどうしてゆくのか発表できる場を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所連絡会、協議会、支部会や情報交換会に参加し、交流の機会を持ち向上を目指している。近隣のGHが集まり、合同家族研修会を開催している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	長く親しんできた、生活リズムをつかみ維持できるよう支援している。十分な関わり会話することで、顔見知りとなり、発言できない方に対しても何に困り、望んでいるのかくみ取れるよう対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	お互いが理解し共通の意識で関わりを持って頂くため、ささいなことも気にとめ、面会時等を利用しこちらから伝えている。一言二言でも多く会話できることから始めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その方にとって、何が最善なのか、相談や説明、提案し実現を目指している。また、サービス導入時期を見極めるよう、その方を取り巻く環境や気持ちやタイミングを見はからい実施へとつなげている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の得意なことを見つけ、日常と一緒に過ごす事で、張りのある生活を目指している。また、お互いが助け合え協調できるよう理解を求めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	課題や問題になっていることを、一緒に悩み解決に近づけるよう努めている。必要時は協力を依頼し助けて頂いている。面会時は挨拶に加え状況を話しコミュニケーション作りをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	病院やなじみのある店等へ家族に協力を頂き行けるよう働きかけをしている。生活スタイル、行動範囲を理解し行く事は難しいが、思い出話となるよう努めている。	会話の中で馴染みの人や場所を聞くことを大切にしている。家族の協力を得て、馴染みの美容院や食堂に行ったり、散歩コースに友人宅を入れたりしている。電話や手紙を書く支援をして関係が途切れないようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係が良好に進むよう、職員が間に入ったり、その時々状況に合わせて対応している。口論やトラブルが多いが、平穏な時に説明し理解を得つつ、暗い雰囲気にならないよう努めている。		

大東グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用につながらなかった方が、数年を経て入居に至った。相談や悩みなどに対し、丁寧に必要なサービスを検討できるよう配慮している。会った時は挨拶を忘れず良い関係を大切にしよう努力している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思を優先し、無理な声かけを控え、気持ちを大切に接している。主張が強い方、そうではない方と、さまざまなため、その人に合った関わりが出来るよう支援しながら行っている。	利用者一人ひとりに合わせた声掛けや行動を見て思いの把握に努めている。困難な人も表情や体のこわばりなどで把握して、思いが実現できるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前の面談で生活の様子を聞き取り、職員間で共有している。少しずつ会話の中で関わり情報を共有するうえでケアのヒントに繋げている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方の得意なところを活用し、役割をもち日常を送っている。活動的な方、体の具合が変化している方、一人ひとりの状態把握に努められるよう申し送りし、不明な点は目で見て確認しあい頑張っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	週に一度のモニタリングを行い評価し、新しい課題に対し、職員間、リーダーに相談や検討をしている。カンファレンスで話し合い、今後の課題や計画に組み入れ作成している。	介護日誌に週ごとにモニタリングをする欄があり、新たな課題は、会議で話し合っ検討している。また、利用者・家族も参加する担当者会議で意見を出し合い医師の助言を得て、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	普段と変わった言動を記録に残し、今後の対応や変化、改善があれば口頭で伝えている。なかなか周知することは難しいが、一つづつ丁寧に出来るよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族や利用者本人の希望や状況に応じ、関わられるよう努めている。認知症や病状の悪化で専門機関への移動や他のサービス利用に繋げ対応している。		

大東グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用できる資源は限られているが、近隣を中心に活用している。スーパーや薬局等の店とも顔馴染みとなってきている。地域への理解を得つつ活動していけるような取り組みが必要である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の協力のもと受診や往診を行っている。有効な情報の交換が出来るよう手紙を用意し情報の提供をしている。状態の低下により受診困難となった時、往診可能な医療機関へ変更できるよう相談もしている。	個々のかかりつけ医に家族の同行で受診している。受診時は家族と、医師宛に手紙や電話で状態を伝え、受診後は必ず報告を受けている。受診が困難になって往診をしてもらえない場合は、往診可能な協力医に変更している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者さんの心身の事に関し不安や心配に思う事は、職員間で共有し改善出来るよう努めている。緊急時以外は状況を見極め、緩和や軽減がない時などは看護師に伝え相談し指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期退院に向け何回か面会したり、話し合いを働きかけている。退院後の生活が可能かどうか、継続出来る場合は、よりよく本人様が暮らせるよう話し合い、都度検討している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	必要に応じ話し合い、家族の思い意見の違い等を集約し、同じ方向へ歩み寄れるよう取り組みをしている。その状況に応じて職員の意識向上をし日頃の業務に活かせるよう努めている。	利用者の状態が、食事が摂れなくなって医療行為が増えてきた時に、入院や転所する方向で取り組んでいるが、看取りになったケースもある。契約時には、利用者・家族の心情を踏まえ特別養護老人ホームの申し込みの確認をして、事業所の方針や出来ることの説明は控えている。	重度化や終末期のあり方について契約時に事業所の方針を説明するとともに、早い段階から本人・家族・職員・医師などと話し合い、方針を共有して取り組むことを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日々のバイタル測定や、食欲や表情を観察し体調の変化に気を配り、急変や事故予防となるよう気を配っている。会議や勉強会で学び、実際に体験する事で身につけられるよう頑張っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自主防災訓練を定期的に行い、災害対策や避難がスムーズに出来るよう備えている。訓練を随時行い、見直していく事で意識の改善に努めている。	年2回夜間想定を含む訓練の他に、避難用具の確認や安全に避難できるよう自主防災訓練も行っている。運営推進会議後に出席者と訓練することもあるが、近隣住民へ協力体制を得るための働きかけが少ない。	近隣住民や自治会との良好な関係を活かし、避難訓練の参加や協力を得るために積極的な働きかけをして、地域とのさらなる協力体制を築かれることを期待したい。

大東グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声のかけ方言葉の使い分けをし、丁寧言葉、少々砕けた言葉など相手に合わせられるよう頑張っている。話の内容によっては、場所を選び対応できるよう配慮している。	排泄や身体・家庭の事情などを話す時は、場所や声の音量に注意して、声掛けをしている。職員は、言葉使いや対応がふさわしくない時はその場で互いに注意し合っている。居室の鍵を自己管理している利用者もいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示の少ない方には、昔の生活状況を参考に特に好みの事柄を話しかけ刺激となるよう関わっている。意思表示できる方でも、日ごろの会話より、ヒントを得て実践できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	半数の方が自分の意思で時間を見て、やるべき事は行いそのあいまを見つけ、一人で過ごす時もあり、バランスがとれた生活を継続できるよう見守りしている。こちらの働きかけが必要な方は体調を優先し対応した。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	普段の身だしなみはもちろんのこと、ちょっとした外出や受診、外出などの際、整えられるよう一緒に選んだり相談したり個別に対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みの味付けとなるよう、味の具合を確認したり、調味料が欲しいと言われる方に提供できるようにしている。汁物の具材切り、盛り付けや配膳など役割をもちお互いが協力出来る場を作り助け合っている。	利用者の好みは給食会議で話し合い、メニューに反映している。汁物の具材切りや盛り付けなど力量に応じて利用者が行い、職員は補助をしている。栽培した野菜を使ったり、行事食を作ったりして、食事を楽しむ支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量の増減、排尿排便の間隔等も気を配り、一日を通して効率のよい栄養と水分が摂れるよう対応している。体重の変化に気をつけ、低栄養の方へは好きな物を提供し補食をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後行えるよう働きかけている。個々に合わせ、ブラシを選び、口臭の予防、舌苔の軽減、残差物の除去に努めている。意思疎通の難しい方は、無理せず時間をおき出来るときに行っている。		



大東グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意の乏しい方へ、随時誘導、定時誘導をトイレで出来るよう促している。かぶれや汚染の程度により、オムツの種類を変更したり、洗浄等を組み合わせ対応している。	個々の排泄パターンを把握して様子を見ながら、できる限りトイレで排泄できるよう支援している。骨折で退院後オムツ使用となった人に、早期にオムツを外せるように取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バランスの良い食事や水分補給、掃除や洗濯干し等、適度に身体を動かせるよう努めている。牛乳やヤクルトなどの乳製品飲用や、バナナや野菜ジュレの自然食品を組み合わせ、便秘の予防や改善に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	夜に入りたい方、個浴を望まれる方の回数などをくみとり対応している。体力低下のある方は、軽めの入浴や、シャワー浴など、長時間にならないよう配慮している。	長湯・ぬる湯を好む人や皮膚疾患の人には順番や個浴・夜間入浴など個々に合わせた支援をしている。家族と一緒に入ることによって事業所の風呂に慣れ入浴するようになった事例もあり、無理強いをせず入浴を楽しめるよう工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動量を充実させる事は必要であるが、個々の体調を見て休養を促している。規則正しい生活に近づけ安眠となるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	何を内服しているのか、変更時は特に注意し、把握できるようにしている。こぼしや飲み込みの確認はもちろんのこと、飲みやすい形状の変更などは医師に相談し随時検討している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の家事を通し力を発揮できるよう関わりを持っている。男性は対応が難しいが、出来る力を引き出そうと頑張っている。行事への参加、たまに外出で気分転換できるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	小学校や保育園の運動会に参加し、地域との関わりも含め交流する事が出来た。気軽な散歩や買い物に加え、季節を楽しめるような外出が出来るよう頑張っている。	子ども見守り隊の帽子をかぶって散歩を兼ねて出かけたり、買い物や喫茶店に行ったりして日常的に出かけている。祭りや花見など季節を楽しめる外出支援もしている。また、外食など利用者の希望に添って出かけられるよう家族の協力を得ながら支援している。	



大東グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	病気の事もあり、無駄な出費とならないよう調整と管理をしている。自分の目で見て選び体感してもらっている。しかしながら、支払いは職員へ任せられる方が多い状況です。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	困っていたり、何か安心したい時など、随時電話を使えるよう相談や関わりを持っている。手紙を書く方はいないが、年賀状のやりとりが持てるよう働きかけている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には季節感を取り入れ、壁飾りをしたり写真を貼っている。机や椅子の配置を変え動きやすいように、見守れるよう工夫している。居室の入り口は個々の作品や気に入った物を飾り個別化を図っている。	居間入口の壁に写真や季節の作品を飾り、話題の提供や季節感を採り入れている。窓を開けたり空気清浄機を使用して、においや換気・室温などに配慮して気持ちよく過ごせるよう努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方と交流の支援をしたり、隣のユニット間でやり取りできるよう行動を制限せず、自由に動けるよう努めている。もちろん一人の時間も大切に出来るよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れ親しみのある物を持ち込んでいただき、環境の変化を最小限として安心できるように努めている。居住スペースも、なじみのある配置に近づけ部屋作りをしている。	整理ダンスや洋服かけ・テレビ・椅子などがあり、畳を敷いた居室もある。遺影・習字やスケッチした作品を並べる人、勉強机で読書や勉強する人など、馴染みのあるものを置き利用者が居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	意思を表現できる方は、随時どうしたいか気持ちを確認できるよう配慮し自立支援を目指している。支援がほぼ全面的である方は、状態が低下しても設備が整えてあり安心できる環境となっている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172100832		
法人名	社会福祉法人 大東福祉会		
事業所名	大東グループホーム すずらん		
所在地	岐阜県大垣市東前1丁目86番地1		
自己評価作成日	平成26年6月30日	評価結果市町村受理日	平成26年9月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detai_2013_022_kani=true&amp;ji_gyosyoCd=2172100832-00&amp;Pr ef Cd=21&amp;Versi onCd=022">http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detai_2013_022_kani=true&amp;ji_gyosyoCd=2172100832-00&amp;Pr ef Cd=21&amp;Versi onCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成26年	8月	18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

得意な裁縫や、花壇で育てた花と一緒に花瓶にいけ、絵の題材とし絵画に取り組めるよう、環境の設定に力を入れた。出来上がった作品を、作品展に出すことの励みの一つとして頑張っている。花壇や菜園へ出かけるのが好きな方は、水やりや手入れをし成長を楽しみにされ、野菜の育て方を職員へ教えてくださる姿がある。一緒に収穫を喜び、料理で味わえるよう心がけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時に基本理念、行動指針の唱和を行っている。事業目標も分かりやすい言葉で見えるところに掲示し毎月のチャレンジシートで振り返りを行っている。次月の目標を立て個々に取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所のスーパーへ買い物に出かけたり、見守り隊を行っている。普段からの挨拶はもちろん、散歩をしながらゴミ拾いを行っている。絵手紙教室の参加もし喜びに繋がっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方と、夏祭りや餅つき大会を行っている。祭り前に盆踊りの練習を行ったり、夏休みにはテラスで一緒にラジオ体操に参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域、家族とともに防災訓練を行った。認知症が重度になり集団生活が難しくなってきた時や、病気で退院が困難なケースについて話し合いを持った。アドバイスや意見をもらい向上に繋がられるよう努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	その方の生活が困らないように社協や包括へ相談したり、会議に参加して頂き連携を続けている。いろいろな意見やアドバイスを頂き、関係作りを行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事務員とも協力、し玄関をなるべく開放し過ごせるよう見守りを行っている。外へ行きたい方には、一緒に散歩へ行き、落ち着けるよう接している。ほんの隙に、外へ行かれることも多く、所在の確認と安全重視で居室移動を行う事も検討した。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々の業務の中で、職員同士声をかけあいストレスをためることなく過ごせるよう協力し合っている。焦りやストレスから口調が強くなる時には、交代したり注意できるよう取り組んでいる。		

大東グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自立支援事業から成年後見人を利用されている方が困らないよう、担当者が来設された時は、情報を共有しサービスや制度の理解をし、支援ができるよう心がけている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	医療が弱いところや、大きな行事について、分かりやすい言葉で説明を行い、納得が得られるよう話し合いを行っている。認知症の悪化や、経済的理由に応じ、本体と連携しスムーズな退居検討を続けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の面会や、カンファレンスにおいて、要望を聞けるようコミュニケーションを大切にしている。問題については、上司に報告連絡相談を行い、解決できるよう努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	一人ひとり面談を行い、意見を言える機会があった。出来る事から反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の能力や働きやすい体制作りをしながら、続けて働けるよう配慮している。体調やメンタル面において変化に気を配り、声をかけあって話し合いをしながら元気に働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験年数やレベルに合わせ、内外研修に参加できるよう配慮している。勉強会を行い日頃の業務へ活かせるよう体験し実践している。日々の業務で気付いたことは伝え改善できるよう声をかけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームの方と一緒に家族会を行った。他施設の良いところを取り入れ活かせる工夫をしていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や相談所から利用に繋がりたいと考え何度も相談し、困っている事や不安に思っている事は解決ができた。その都度納得や安心が出来るよう話を聞き、信頼関係が作れるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居間もない時には、出来る限りこまめに面会をお願いし、状況や様子の説明を行っている。家族の希望に添い安心して頂けるよう心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	出来る事と出来ない事を見極め、出来る限り自立に向けた支援をしている。安全に配慮し手は出さず、気配り目配りを大切にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	裁縫や畑仕事、花の育成等、得意な事や分かる事、昔から行っている事等、昔からの知恵を教えていただき、一緒に季節の収穫が出来る事を楽しみにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には最近の様子を伝えられるよう努めている。カンファレンスには家族も参加をしていただき、情報共有をし本人が電話をしたい思いの時には、安心できるような声をかけて頂き、協力を得る事で関係性を保っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	買い物や喫茶店へ行けるよう、家族に協力を頂き関係を築いている。会話の中で昔馴染みだった場所を聞く事を大切にしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士、家事作業は出来るところで力を発揮し助け合っている。耳が遠い方もみえ職員は黒子となり、会話の橋渡しをしお互いの思いが伝えられるよう努めている。		

大東グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者の方が困らないよう相談を受け、その時の一番良い方法がとれるよう、納得が出来るまで話し合いを持っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	得意な裁縫や家事、絵画が続けられるよう意欲を大切に、道具の準備や環境設定を行っている。オセロや将棋など楽しみを聞き取り出来るよう行える場を作っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活歴を会話の中からも把握し、家族にも協力を得てアセスメントシートを活用し、その人らしさを理解し支援につなげている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調の変化や表情、言葉の変化がある時は記録し情報共有をしている。一人で過ごす時間も大切にしながら、周りの方を楽しく過ごせるよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスは家族にも参加して頂き現状や課題を説明し、家族の意見も聴き、本人の希望にもそえるよう介護計画の作成をしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録や申し送りを大切に、書きもれや伝え漏れのないよう心がけている。気付いたことは相談し改善出来るよう努め、ケアプランへ反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護保険外のサービスを利用し薬を摂りに行く際、一緒に近くのスーパーで買い物をして頂き、本人様の思いを聞きながらサービスをお願いし連携をとっている。		

大東グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	天気の良い日には、見守り隊の帽子をかぶり、施設周辺のごみ拾いを行ったり、中学生による資源ごみ回収時は協力し出せるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診が困難となった方には、家族と相談し往診の出来る病院へ変更し、本人の負担が少なく医療を受けれるよう往診出来る医師へお願いし情報提供を行い、スムーズな変更へと繋げられるよう努めている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の観察で気付いた点は看護師へ伝え、必要に応じ家族に協力を得て早期に受診へ繋げる相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された時は面会に行き、担当医師、看護師の方から、説明を受け連携を持てるよう努め、退院時は今後の生活に繋げる努力をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	食事ができなくなったり医療が増えてきた時に、家族医師、施設との話し合いを持ち、施設として今出来る事出来ない事を理解して頂き、本人、家族の希望に出来るだけ添えるよう話し合いを何度も持ち、よりよい方向への連携は必要である。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日々のバイタルチェックから異常の早期発見に努めている。勉強会にて実践やどのように対応していくかを学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自主防災訓練を行い、日中夜間の想定でどうすれば安全に早く避難が出来るかを考え行っている。署員の方にも煙や燃え移り方を教えて頂き、避難順番等工夫をし実践している。		



大東グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	表情を確認しながら、不快とならないよう言葉遣いや対応には気を配っている。個々に応じ声のかけ方や声の大きさにも配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中から希望や思いを聞き出せるよう努めている。実践出来そうな事は繋げるよう心がけている。言葉が出にくい方もあわてさせず、ゆっくり聞くよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外へ行きたいと思われる方には、出来るだけ付き添えるよう対応している。出来ない時には、話をし納得して頂いている。その時々希望を聞くようにし、無理なく過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	今日着る服を選んで着れるよう支援している。化粧水やクリームを使用し、肌の手入れをしていただいたり、外出時には化粧をしたり、着替えれるよう声をかけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	汁づくりや盛り付け、食器洗い片付けを通し、一人一人の出来る事を見極め手伝って頂いている。一緒に行う事でコミュニケーションに繋げており、楽しく食事が出来るよう心がけている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランス良く、おかずが少しずつでも食べれるよう声をかけている。普段より食事量の少ない方は家族の協力を得て食べやすい物で補っている。水分量は特に気をつけこまめに摂れるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	残渣物が出てこなくなるまで、うがいをしていただき磨き残しがないか確認している。唾液の多い方にはマウスウォッシュを使用したり、舌磨きを行っている。		

大東グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は出来るだけトイレで排泄出来るよう誘導を行い、訴えにはすぐに対応している。排泄パターンに合わせ、オムツ交換時の時間帯をかえ対応している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多く摂取して頂けるよう声かけ提供している。起床時、牛乳を飲んで頂き排便を促している。運動も進めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望に添い入浴のタイミングを考慮している。ゆっくり入浴が出来るようあわてさせない声かけを行うようにしている。皮膚疾患により、夜間に個別で入れるように支援中である。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中も、夜間の睡眠状態や体調に合わせて休息して頂いている。長くならないよう早めに声をかけ、日中の活動に繋げている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が届いた時には、お薬表を確認している。受診往診を記録に残し内容が分かりやすいようにしている。飲み込みにくくなっている方は医師とも相談し薬の形状の変更ができるか話し合っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事仕事を役割とされ、食器洗いや汁作りに積極的に参加して頂いている。お裁縫が得意な方には布巾作りをお願いしたり、力を発揮して頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力を得て好きだったコーヒーを飲み喫茶店へ出掛けて頂いている。出かけたという思いに寄り添っていかうと努力している。		

大東グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の心配をされる時は、お財布を確認し安心して頂いている。数人の方には外出時には支払えるよう財布を渡し支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時、電話をかけて頂き安心して頂いている。家族とのやり取りが上手くいくよう橋渡しをしている。年賀状を家族に出す事で繋がりを大切にしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓から花壇がながめられ季節感を持って頂けるようにしている。明るさや室温、空調に気をつけ過ごしやすくし、体調管理にも繋がっていている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自席以外にも椅子を用意し、自由に好きな場所を使用して頂き仲の良い方同士が過ごせるスペースとしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時使い慣れた馴染みの家具や椅子、衣類を持ち込まれており、安心感をもち安全に過ごせるよう考えている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	カルチャーホールへ続いており行き来して頂き、自由な空間を使う事が出来ている。その反面所在の確認はしっかり行っている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172100832		
法人名	社会福祉法人 大東福祉会		
事業所名	大東グループホーム あじさい		
所在地	岐阜県大垣市東前1丁目86番地1		
自己評価作成日	平成26年6月30日	評価結果市町村受理日	平成26年9月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/21/1/index.php?act=ion_kouhyou_detai_1_2013_022_kani=true&amp;ji_gyosyoCd=2172100832-00&amp;Pr_efCd=21&amp;Versi_onCd=022">http://www.kai.gokensaku.jp/21/1/index.php?act=ion_kouhyou_detai_1_2013_022_kani=true&amp;ji_gyosyoCd=2172100832-00&amp;Pr_efCd=21&amp;Versi_onCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成26年 8月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

外へ出かけたい、美味しいものを食べに行きたいと、はっきり言われる方も多く外出する事を楽しみにされている。定期的に出かけられるよう計画し実施につなげている。外へ出かけた時には地域の方に挨拶したり、店員に助けて頂くこともあり関わりがもてるよう心がけている。子どもや赤ちゃんだけでなく、入居者の方と同世代の方が面会にみえた時、面会者だけでなく周りの入居者と話をし会話が弾む場面も多く、必要に応じて職員も間に入り入居者以外の方と触れ合う良い機会となっており大切にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼では、基本理念、行動指針を声に出して確認している。分かりやすい言葉で事業目標を設定し、各自がチャレンジシートを用いて毎月振り返りを行い、次月の目標をたてて業務にあたっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭り、餅つき大会では地域の方も自由に来て頂き、反省を生かし次へ繋げている。保育園、小学校の運動会を見に行ったり、園児や落語ボランティアの訪問を通じて交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	カルチャーホールを開放し、地域の方が自由に利用し挨拶を交わす機会を大切にしている。介護予防教室や美化活動、見守り隊も一緒に参加活動し、職員は地域の一員として溝掃除や廃品回収にも協力できた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族や地域の方、市役所の方にも参加してもらい、ここでの事故や感染症について、現状や悩みを報告し意見を頂いている。その時に出た意見は申し送りで伝え、職員の励みとなっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	現場での悩みや、他のサービスについて相談し会議に出席して頂き、施設の現状を伝え意見を頂いたり、疑問に思う点についてはその都度たずね、解決に向かうようにしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会で理解と意識を深めている。転倒や行方不明の恐れのある方の対応に困っている時には、居室変更も視野に入れ、会議や申し送りで相談できる機会をつくっている。コールマット等の用具も活用しながら、行動を制限しない対応を心がけている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	不明な外傷はないか確認しなぜ起きたか改善に努めている。休憩時間を設け、口調が強くなる時には別の職員と交代したり、時には注意しあって穏やかに過ごせるようにしている。		

大東グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を利用する際、申し送りや会議でどのような制度か、支援してもらう部分はどこなのかを伝え職員は理解している。さまざまなサービスを使いその方に必要と考えられる時は、随時関係者と話し合いをもっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を行う際には家族、事業所双方が十分な時間をとれる時に設定、説明をし理解を得ている。改定の際は面会時に説明し、不明な点がないか確認している。疑問な点は随時受け付け担当から伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族会で家族同士、地域の方へも意見を言える場をつくっている。出た意見は改善やサービスの向上に繋げるようにしている。個人的な内容は個々に相談要望を受けている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議で意見や提案をできる時間をつくっている。休憩時間は設けているが、実際には業務がおし検討が必要である。施設長との面談の機会があり、各自が意見を言える場が設けられた。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況や態度を把握し、不安のある職員には個別に声をかけ悩みや思いを聞いている。要望に応じて条件や時間を検討したり、普段の勤務態度を評価してもらうことで、意欲の向上に繋がっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受ける機会があり、勤務年数や力量に応じた研修への参加が出来ている。研修後自ら報告を行うことで、学んだことを再認識、振り返る機会となったり、他の職員も勉強になり刺激となっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	情報交換会に参加したり、近隣の事業所と交流をもち、合同家族会も開催した。困っていることや疑問な点は随時相談出来る関係となっており、サービスの向上に繋がっている。		

大東グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活史シートを活用して、得意な事や日々の過ごし方を理解し、会話のきっかけを作っている。不安が強い時は、家族に面会や電話の協力を得て本人の安心につながった。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	専門性があるがゆえに難しい家族の意見もあったが、意向や要望を聞いた。悩み、不安はないか思いを聞く機会を作っている。面会時には近況を伝えたり、支援方法の相談も行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	緊急性やニーズを見極め、利用のタイミングを考えている。本人の身体状況だけでなく、置かれている環境や家族の事情、関係性を把握し緊急と判断した時には速やかな利用に繋げられるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	何でも手を出すのではなく傍で見守り、出来る事、力を見極めている。支援されるばかりではなく、料理や裁縫、野菜作りを教える場があることで自信に繋がったり、助け合いながら日々が送れるよう心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居後も面会、外出の協力を得ている。家や妻が心配、銀行に行きたいなどの思いがある時には面会時に伝え、話の内容に合わせた声かけや電話の協力を頂き、家族と共に支えていく事を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容院やうなぎ屋さん、入居後も引き続き通えるよう家族の協力を得ている。近所の方や友人の方の電話や面会があった時には、家族の意向を確認し関係を断つことがないようにしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性格や生活リズムなど気の合う人同士で話が出来よう机を分けて席配置を行っている。洗濯干しや炊事などやり方が分からず困っている方がいたら、教えてあげたり一緒に行う場面がみられており大切にしたい。		



大東グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者、家族にいつでも相談してくださいと伝え、不安が大きくなるよう心がけている。次の生活の場が決まっている時には、混乱なく移れるよう本体とも情報提供を密に行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	買い物が好きな方は、希望時に家族や外出サービスを利用し、出掛けられる機会を作っている。コーヒーを飲みに行きたい、美味しいものが食べたいなど、普段の会話から希望を聞き、計画を立て実行に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や習慣、入居の経緯をアセスメントシートに記入し把握している。起床時コーヒーを飲む習慣の方には同じように提供し、麺が苦手な方には好きなパンを提供するなど今までの生活に近づけるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	居室で過ごす方、家事が気になって落ち着かない方の過ごし方を把握している。落ち着かない時の言動等、声のかけ方を記録や申し送りや伝えている。共有できるように努めてはいけなく考えている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員と家族、入居者にも参加して頂いている。現状を皆で共有し、要望を聞きそれに沿えるケア方針、具体的な対策を考え介護計画を立てている。医療面での対応が必要であれば随時見直している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿って支援したことが本人にとって良かったのか、課題があったのかを一週間ごとに振り返り記入している。変更があった時にはしばらく経過を意識して書く努力をしたい。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	支えてくれる環境、人の有無に応じて、外出サービスを利用し買い物や受診に出掛けられるような態勢を整えている。		

大東グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所のスーパーや行きつけのドーナツ屋へ出掛けている。店員とお話したり、買い物をする中でグループホームの事を知ってもらい関係を作ったり、関係を断ち切らず生活できるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時には様子を家族に伝えるだけでなく、医師にも手紙を渡すことで情報の共有、連携が図れるよう配慮している。また、体の状況に応じ受診が難しくなってきた時には、往診が可能か相談している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	血圧、熱だけでなく顔色や呼吸状態を観察し、普段と違う時や本人から訴えがあった時には、その都度看護師に報告している。不安な時は見てもう、受診に繋げる動きを協力して行う必要がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供を行っている。面会時には、治療の進み具合、退院のメドについての情報を確認している。退院の話が出る前に受け入れ可能な条件を伝え、スムーズな退院に繋がれるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	大病を抱えて入居された方の場合は、もしもの時どうするのか、延命や病院の搬送先についてを事前に話し合い、関係者と共有し混乱のないようにしている。元気な時に最期をどうしたいのか考えておくことも必要と考えている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会で急変時の電話の対応や、水銀での血圧の測り方、吸引機の使い方の勉強を行い、実践に備えている。実際の事故報告書を用いて危険予知や対応策を皆で考え、日々の業務に活かせるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	春と秋の防災訓練だけでなく、自主訓練を行い、職員を変えて同じ想定で繰り返す行うことで避難の方法、押さえておくポイントが覚えられるようにしている。職員全員の周知は難しく、今後も定期的に行う必要である。		

大東グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄や身体の事、入居者が気にしている家やお嫁さんの事等については、皆に聞こえる声で話さないよう、話す場所や声の大きさ、トーンに気を配っている。言葉のかけ方、口調にも気をつけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の何する、食べるなど小さな事も、入居者の意見を聞き選べる、決めれるように心がけている。その方にとって理解できるような説明の仕方や、ペースを大切に急かさないう気をつけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	習慣となっている洗濯干しや隣ユニットの友人の部屋への訪問が、本人の行きたい時、やりたい時に行えるよう声をかけたり、言われた時には出来る限り浴えるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後クリームをつける習慣の方が忘れていたらさり気なく声をかけたり、一緒に居室へ行く事で出来るよう支援している。カッターシャツに背広姿の方には、ポリシーを大切に褒める事で自信となっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事や節目には季節ものを一緒に作り食べることで、季節を感じられている。炊事が得意な方に教えてもらう事で生き生きとしている。お手伝い場面で分担が出来ているが負担となっていないか声をかけている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量や形状がその方に合っているか、咀嚼、飲み込みの様子を観察している。水分が取りづらい時にはジュースなど飲める物を提供し、毎食の食事に限らず夜起きてきた時等のめれる時に提供し補っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯のない方や粘つきがある方には歯磨きジェルや360度歯ブラシを使い、歯ぐきや舌の保清にも配慮し、必要に応じ介助している。強く磨く方には優しく磨くよう声をかけたり、柔らかめのブラシを使用している。		

大東グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを観察し、自ら言われない方は時間を見て声をかけている。座位が保てる方はトイレへお連れし、トイレでの排泄が促せるよう支援している。骨折後退院した方がオムツが外れるよう取り組んでいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方にはヨーグルトや寒天、牛乳等の自然食品を摂って頂いている。また、順調な排便に繋がり、免疫力アップのために毎朝ヤクルトを飲んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	熱好き、ぬる好きによって入浴する順番を考慮したり、長湯や一人で入りたいというそれぞれの要望を把握し、添えるよう努力している。発熱しやすい方は何度までなら入浴可か医師に確認している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜の睡眠の様子を観察しながら、日中無理せず休む時間も作っている。就寝前、休まれる時には室温や明るさに配慮し、眠れない時には一緒に起きて過ごすことで眠れない不安が大きくなるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服している薬の処方箋を各自のファイルに挟み、いつでも把握できるようにしている。薬が変更、追加になった場合には、記録に記し、申し送りして伝えている。医師の指示で朝、昼、晩と測定を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家でも使っていたエプロンをつけ、仕事としてやってきた食器洗いを行ったり、汁作りを材料選びから行い、切り方や味付けを相談し行っている。晩酌が日課の方には希望時ビールを提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家に行くとき帽子を被ってこられる時は外を散歩したり、家族に電話したり、納得できる方法を考えている。買い物に行きたい時には出来る限り浴えるよう心がけている。身寄りのない方も外出サービスを使い、行きたい時に行けるよう機会を作っている。		

大東グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に行く際、自身で財布の中身を確認し出掛けたり、実際に支払い、お釣りをもらうことで満足に繋がっている。難しくなりつつあるが困っている時はそっと声をかけ不安な思いが残らないよう配慮している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある時には自由に電話できるように声をかけ支援している。家族に伝えたい事を紙に書いて渡される方もみえる。年賀状のやり取りも行えるよう用意している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓を開けたり空気清浄機を使用することで臭いや換気に気を付けている。食堂には湿度計を設置し、それを見ながら冷暖房を使用している。季節にちなんだ壁紙や写真を掲示することで話のネタとなったり、季節を感じる機会となっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の机だけでなく、別に机と椅子を置く事で、気分に応じて違う所に座って仲の良い方と話したり、テレビを見る場となっている。周りに人がいない所でゆっくり過ごしたい時には共用ホールも活用している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使っていた衣装タンスや化粧箱、好きな城や歴史の本を持ってきて頂き、好きな時に見たり使えるようにしている。テレビが好きな人は持ってきて頂き、自由に見れるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	表札をつけることで居室の目印となっている。また、奥さんとのツーショット写真や大好きな犬、猫の写真を貼る事で、迷わず居室への行き来が出来ている。		